

## 1. 授業のねらい・概要

本講座は、講義のない夏季あるいは冬季期間のいずれかにおいて、海外（米国・ニューヨークまたはフランス・パリ）に6日間程度滞在し、学生諸君に海外を肌で直接感じてもらいながら、現地の日本語受講生や日本語専攻学生とともに、絵手紙実践を通じた国際交流ワークショップに参加し、日本の文化がその国にどのように評価されているのかを把握し、異文化を背景とした方々とコミュニケーションを図れる能力を養うことを主眼とする。一方、政府・公的機関、国際機関、企業等も訪問し、実務の最前線に携わる方々から講話を受けることで、例えば、現地の経済・ビジネスの状況や国際社会の主要課題等について知ることができるようになっている。それと同時に、海外で活躍する日本人の姿を知り、海外で働くことの意義や尊さも学んでもらう。もちろん、海外滞在中は市内観光を愉しめる時間も十分設けていく。

## 2. 授業の進め方

渡航前に計3～4回（各回90分）の事前講義を実施する。その後、現地に渡り、滞在期間中、さまざまな場所を訪問しながら、国際交流ワークショップを通じて、日本語・文化に関心を持つ現地の方々と触れ合ったり、現地で働く日本人から講話を受講したりする。このほか、市内観光を通じて、歴史や文化に触れる時間も十分確保する。なお、帰国後にレポートを提出することが求められる。

## 3. 授業計画

1. 渡航前：海外渡航に関する注意喚起、絵手紙実践、訪問先の基礎知識等に関する事前講義（6～8回）
2. 現地滞在中：関連各所への訪問（国際交流、講話受講等）、市内観光等
3. 帰国後：レポート提出

## 4. 到達目標

講義やゼミのような通常の座学では得られない経験を得ながら、改めて諸君の住む日本を客観的に見つめると同時に、より広い国際的視野を持ち、多くの人々とコミュニケーションを図れる能力を養成する。

## 5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

パスポート、ESTA、旅行保険、クレジットカード等の取得に関し、予め定められた期限までに各自しっかりと準備すること。また、渡航先の文化、気候、地理的情報等を調べておくこと。日本国籍以外で、入国に際してビザが必要な学生は、然るべきタイミングで取得すること。なお、事前講義の無断欠席、ビザ取得の見込みなし等の事情が明らかになった場合、当該年度の参加を諦めてもらうことがある。

## 6. 成績評価の方法・基準

事前講義への参加状況、帰国後のレポートの提出等の状況を見て、総合的に評価する。

## 7. テキスト・参考文献

事前講義や現地訪問先で配布される資料を用いる。

## 8. 受講上の留意事項

- ①訪問先（ニューヨークまたはパリ）や実施時期は別途告知し、実施にあたっての事前説明会を行う予定。
- ②費用は、渡航費、宿泊費、各種手数料等となり、合計で約25万円程度（飲食代・娯楽代等は除く、変動の可能性あり）の予定。また、現地訪問先も当初予定より一部変更する可能性あり。
- ③人数がごく少数の場合は本講座を催行しないこともある。
- ④絵手紙実践を通じた国際交流ワークショップの開催場所は、ニューヨーク市立大学ラガーディア校またはパリ日本文化会館となる。